

科目名	企業論A Corporate Management A						
科目担当者	本田 信雄 HONDA Nobuo						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)
授業の概要	本講義では、企業の意味およびその役割について検討し、同時に企業をめぐる諸問題についても考察していく。主に取り扱う内容としては、企業概念、企業形態の展開、株式会社の現実、コーポレート・ガバナンス等を予定している。						
授業の到達目標	①企業概念および企業形態について理解する。 ②企業、特に株式会社の現実について理解する。 ③企業の意味およびその果たすべき役割について理解する。 ④コーポレート・ガバナンスの意味およびその役割について理解する。						
授業計画・内容	1	企業概念およびその種類					
	2	企業形態の展開(1)－個人企業、合名会社					
	3	企業形態の展開(2)－合資会社、株式会社					
	4	企業形態の展開(3)－株式会社と株主総会					
	5	企業形態の展開(4)－有限会社、新会社法施行後の有限会社、企業形態のまとめ					
	6	株式会社の現実(1)－株式会社の普及状況					
	7	株式会社の現実(2)－株式公開と上場制度					
	8	株式会社の現実(3)－株主総会と株主構造					
	9	株主総会の現実(4)－経営機関と専門経営者、経営者支配の進展					
	10	株式会社の現実(5)－株式の分散・集中と支配構造の変化					
	11	コーポレート・ガバナンス(1)－コーポレート・ガバナンス論の台頭、問題提起					
	12	コーポレート・ガバナンス(2)－アメリカにおけるコーポレート・ガバナンス改革					
	13	コーポレート・ガバナンス(3)－日本におけるコーポレート・ガバナンス改革					
	14	コーポレート・ガバナンス(4)－欧州(ドイツ)におけるコーポレート・ガバナンス改革					
	15	コーポレート・ガバナンス(4)－欧州(イギリス、フランス)におけるコーポレート・ガバナンス改革、まとめ					
授業外学修 (事前学修)	テキスト、配布資料に目を通し、専門用語等を調べておく (毎週 2 時間)						
授業外学修 (事後学修)	テキスト、配布資料・講義内容ノートに目を通し課題実施に備えておく(毎週 2 時間)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	前期末定期試験(またはレポート) 講義時の課題(レポートまたは小テストを計 6 回)				50% 50%		①②③④ ①②③④
成績評価基準	秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合						
教科書	小松 章『企業形態論(第 3 版)』新世社 ※その他、必要に応じて資料を配布する。						
参考文献	なし						
その他							